

# ONE

OCEAN NETWORK EXPRESS

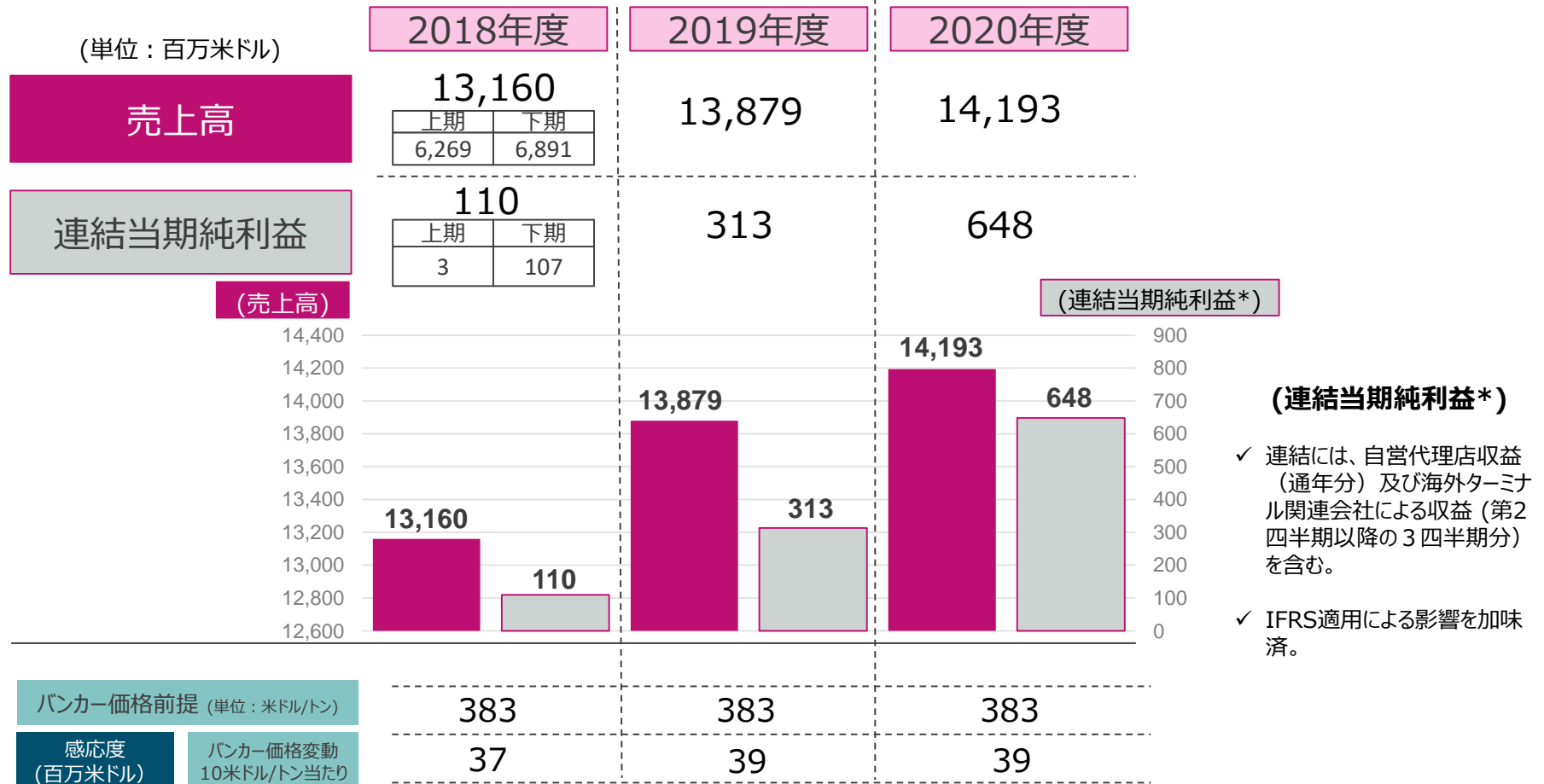
3カ年事業計画(2018-2020年度)及び2018年度概況

2018/4/27

# 1. 損益計画 (3カ年)

比較的良好な世界経済を背景とした堅調な荷動きを背景に、需給関係は中期的には安定する見込み。アライアンスの組み換えもひと段落し、サービスの安定化にも寄与する事が期待される。

損益計画の策定においては、運賃は概ね2017年度の水準から一定とし、積高は成長率に応じた自然増（年率3-4%増）を盛り込んでいる。さらに、シナジー効果によるコスト削減に取り組む事で、着実な収益の改善を目指す。

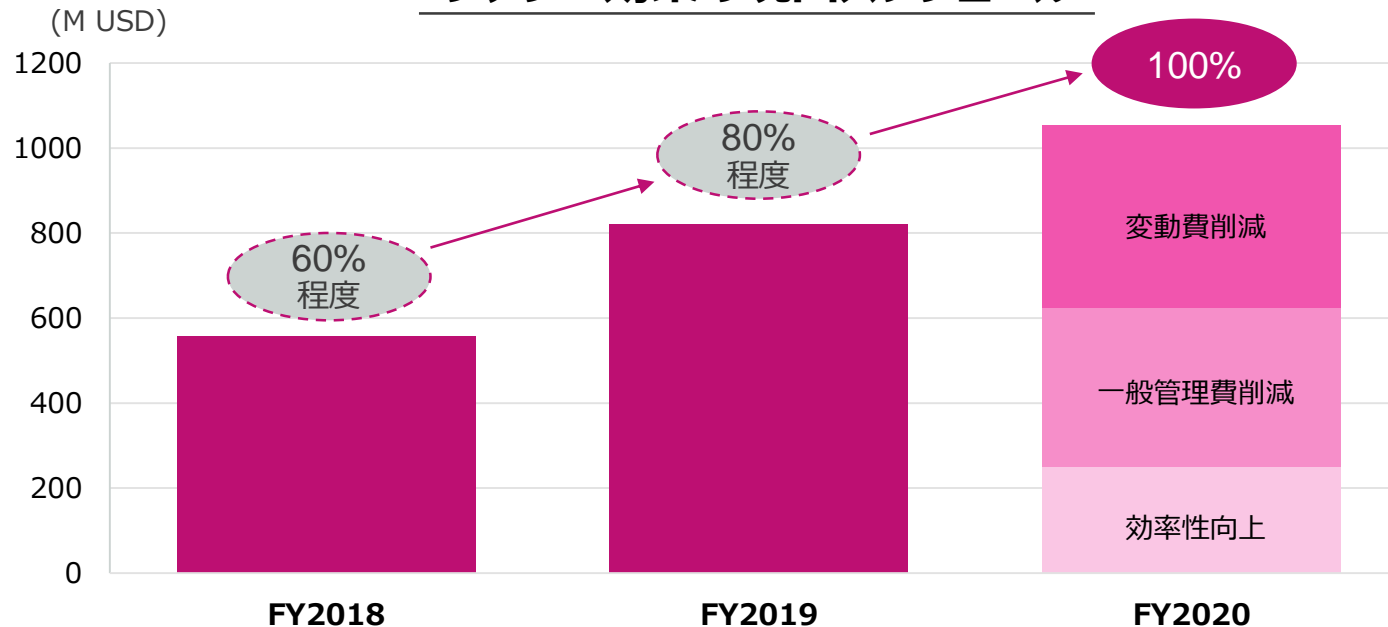


## 2. シナジー効果の現出

当初の見込み1,028百万米ドル(1,100億円)/年間を上回る1,050百万米ドル(1,124億円)/年間のシナジー効果を見込む。初年度に60%程度、2年目に80%程度、3年目に100%現出するスケジュールを想定。

- 1,050百万米ドルのシナジー効果の内訳は下記を見込む： (為替：1 US\$=107円前提)
- 変動費削減
 ……430百万米ドル：鉄道、トラック、フィーダー、ターミナル、コンテナ等の費用削減
- 一般管理費削減
 ……370百万米ドル：IT統合・組織合理化・アウトソース促進等
- 配船・運航費効率化
 ……250百万米ドル：燃料消費量削減・航路合理化等

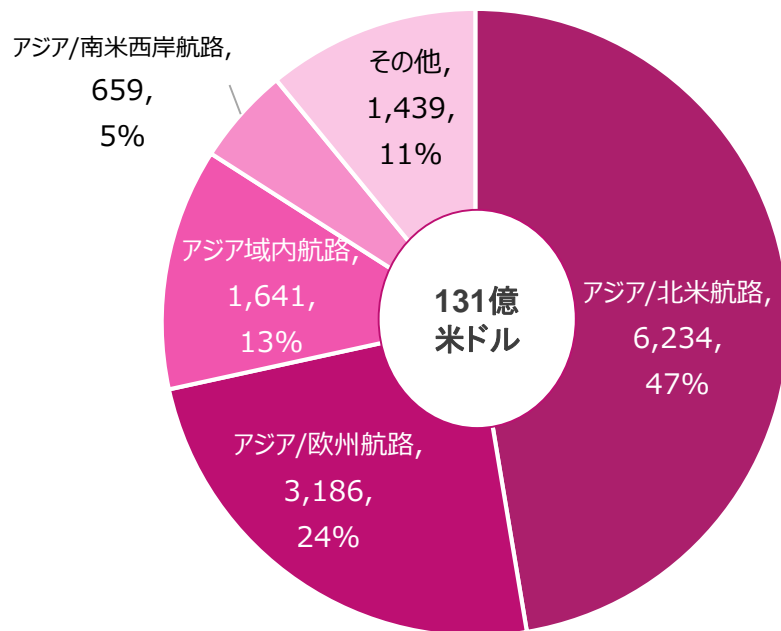
### シナジー効果の現出スケジュール



### 3. ポートフォリオ (売上高・スペース)

#### ONE ポートフォリオ (2018年度)

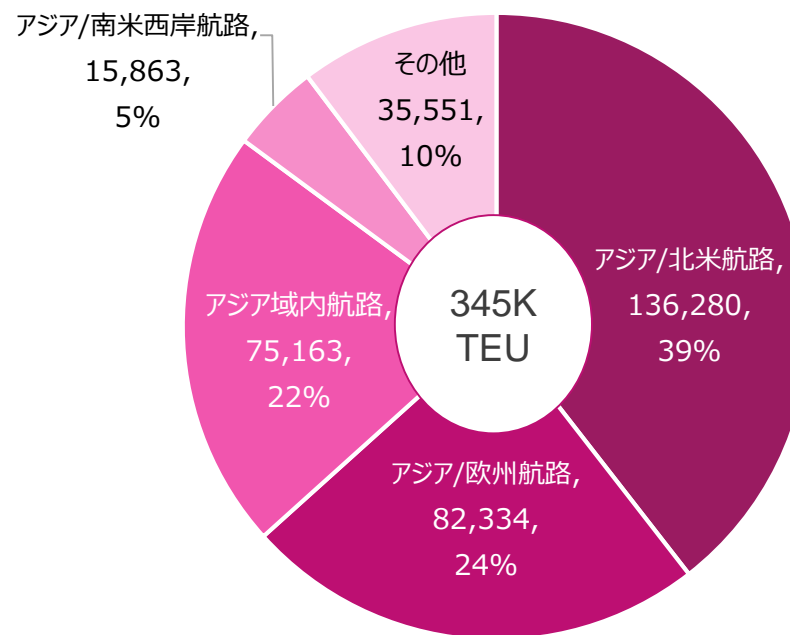
売上高



(航路名, 百万米ドル, %)

- ✓ 北米、欧州、アジア域内航路で売上全体の84%を占める

スペース (TEU/週)



(航路名, TEU/week, %)

- ✓ 北米、欧州、アジア域内航路で、スペース全体の85%を占める

## 4. 船隊構成

2018年度期首から、順次、備船が開始されるに従い、総船隊も増加。新造船については、2018年度においては、14,000TEU型コンテナ船7隻の竣工が予定されている。

船型 (TEU)		2018年度期末時点
>=20000	隻数	6
	TEU	120,600
10500-20000	隻数	23
	TEU	321,000
9800-10500	隻数	10
	TEU	100,100
7800-9800	隻数	39
	TEU	347,598
6000-7800	隻数	39
	TEU	252,168
5200-6000	隻数	16
	TEU	89,670
4600-5200	隻数	24
	TEU	118,260
4300-4600	隻数	16
	TEU	71,816
3500-4300	隻数	11
	TEU	46,562
2400-3500	隻数	20
	TEU	52,992
1300-2400	隻数	11
	TEU	18,711
1000-1300	隻数	1
	TEU	1,200
<1000	隻数	8
	TEU	6,000
Total	隻数	224
	TEU	1,546,677

## 5. 2018年度通期概況

### □ 需給、市況動向

- 世界全体の船腹供給は2018年に5%程度の増加が見込まれる一方、貨物需要は4%程度の増加と予想され、今後1年間においては供給が需要を若干上回る傾向にある。
- 東西航路においては2017年のアライアンス改編による影響が収束し、各アライアンスにおいて適正なスペース供給が為されることで、安定化に繋がるものと期待される。

### □ コスト削減、競争力強化

- 統合によるシナジー効果として、変動費削減、一般管理費削減、配船・運航効率化により年間1,050百万米ドルのコスト削減を見込む。初年度である2018年度はその内6割程度、2020年度にはフルに現出すると見込む。